

図書館だより 6月号

2020年6月19日発行
阿波高校図書委員会

今月は3年生の図書委員さんが、本を紹介してくれます。さて、どんな本と出会えるでしょうか。楽しみですね。おっと、ご挨拶が遅れました。わたくしは、猫館長。阿波高図書館に時々現れます。ぜひお見知りおきを。



○33HR図書委員上杉のオススメ!

『少女不十分』

西尾維新 著



「この本を書くのに10年かかった」と言われている、物語シリーズや忘却探偵シリーズを手がけた西尾維新先生の本です。

ある日、通学中に事故を見てしまう。2人の女子小学生の内、1人の女の子が車にひかれてしまう。そこで僕の目は、事故に遭っていない子の方に釘付けになる。友達が事故に遭ったこの状況で少女は異常な行動を取る…。その後、その少女によって誘拐された大学生の僕と少女の、約1週間に及ぶ監禁生活が始まる…。あらすじを読むと、いったいどういうこと?と思うで

しょ。是非読んでみてください。

○34HR図書委員相原のオススメ!

『荒神』

宮部みゆき 著

私は友達に「何かオススメの本ある?」と聞かれたら、必ずこの本を薦めます。一推しです。全人類に読んで欲しいと思うほど好きです。

この本は大まかに言うと怪物退治の話で、ファンタジー色の強い歴史モノです。かなり分厚い本ですが、予想もしない展開が次々と起きるので、続きは続きはと読んでいっているうちにあっという間に読み終わってしまいます。また、ドラマ化もしているので、ドラマから入って小説で補足する、小説から入ってドラマで各登場人物のビジュアルを確認しても楽しめます。

長編小説を読みたい人、スリルのある本が好きの人にオススメです。是非読んでください。



○34HR図書委員玉田のオススメ!

『自負と偏見』

ジェイン・オースティン 著

タイトルだけ見て心でつぶやくのは「難しそう」の一言。この本は最初のページをめくるまでが遠いと思いますが、一旦手にとって開いてみてください。本の魅力に気づくには、読まないとはまりません。

ざっくり説明するなら、この作品は「約200年前の恋愛小説」です。といっても、恋のもどかしさみたいなものは現代とほとんど変わりありません。舞台はイギリス。身分差のある男女2人が、周りの人々によってお互いを偏見の目で見えてしまい、こじれた関係ができあがってしまいます。そこからどうやって結ばれるのか…。

かなり長編ですが、先を読みたいという欲がだんだん出てきて、割とあっさり読み終わってしまいます。注釈もありますが、この時代のほかの小説をかじっていれば、もっと読みやすく感じるとと思います。ぜひ読んでみてください。



○35HR図書委員田中のオススメ!

『いなくなれ群青』

河野裕 著

主人公である男子高校生の七草は気づくと知らない場所にいた。その島は棄てられたモノたちが集まる「階段島」と呼ばれるところだ。島を出るにはなくした物を見つけることが必要で、それまで島からは出られない。不自由なこともあるが平穏な日常を送っていたときに、連続落書き事件が起こる。そこに秘められた謎を解くための日々が始まる…切ない青春ミステリ。



○33HR図書委員飯田のオススメ!

『チヨ子』

宮部みゆき 著

主人公の「わたし」がアルバイトで着ることになったピンクのウサギの古びた着ぐるみ。それをかぶって外を覗くと周りの人がぬいぐるみやロボットに変わってしまい…。この本は少し不思議なお話です。読み終えた後、自分が大切にしていたものを思い出してみてください。ファンタジー系のお話好きな人にオススメです。



それでは、また7月号でお目にかかりましょう!

